

データ分析・活用の重要性を レースの現場で見せるグランバレイ株式会社 ～富士24時間レース入賞とwith富士通を語る～

AIやデータ分析を通じてお客様の課題解決に迫る「データ×経営のスペシャリスト集団」グランバレイ株式会社。2021年5月、富士通と協業関係にある同社の大谷泰宏 代表取締役と親交のある3名のアマチュアドライバーで構成された「GRANVALLEY Racing」が、富士スピードウェイで開催されたスーパー耐久レースシリーズ第3戦「NAPAC 富士SUPER TEC 24時間レース」に参戦しました。データ分析に基づく仮説によって立案されたデータドリブン戦略がリアルレースでどこまで通用するのかをテーマにチャレンジし、結果は初出場ながら過酷な24時間のレースを完走、クラス2位の表彰台獲得という快挙を達成しています。

今回、大谷代表からモータースポーツにかける想い、そして「with富士通」ビジネスについて語っていただきました。



グランバレイ株式会社 代表取締役 大谷泰宏氏

グランバレイ株式会社

- 設立：2005年1月
- 本社所在地：東京都千代田区西神田 3-8-1
千代田ファーストビル東館 7F
- 事業内容
 - ・ERP、アナリティクスツール等を活用した経営管理、経営分析システムの導入支援、コンサルティング業務
 - ・AI（人工知能）や機械学習を利用したソリューション提案及びシステム開発 など

“目標を見失わず、本質を追求し続けること”

私は以前、SAP ジャパン株式会社に勤めていました。当時は、SAP Business Warehouse(SAP BW)の製品責任者として、数多くのお客様にBWを導入していただきました。データの利活用には、単にツールを導入するだけでなく、刻々と変化する経営環境に対応して、分析に関連するデータを蓄積、新しい分析視点を追加していくことが大切です。データ利活用のライフサイクルを一貫して、長きにわたりお客様に寄り添いサポートし続けること。このコミットメントを実現するために私はグランバレイを立ち上げました。この想いに全力で取り組んで17年目。市場からも一定のご評価をいただき現在に至っています。

一方でプライベートの側面では、子供の頃から好きだった車の趣味が高じてサーキット走行をするようになりました。仕事が忙しいからといって趣味も中途半端にはしたくない。また、一般道を普通にドライブするのに比べて、サーキット走行にはとてもコストがかかります。仕事と趣味の両立、限られた時間とコストの制約の中で、自身の運転技能向上の効率を最大化するため、早くからデータロガーを導入してサーキット走行を科学的、定量的に分析していました。この取り組みが現在、プロフェッショナルなレースチームを支援するレースアナリティクスに繋がっています。最近では、実際のサーキット走行とコンピュータによる仮想練習とを単一のシステム上で解析できるレーシングシミュレーターの販売事業も開始しました。すでに趣味の領域からは逸脱してしまいましたね。

データ分析の効果を短期に発揮できるのがレース

日頃、生業として取り組んでいる企業向け経営分析システムは、構築から結果がでるまでの時間が長く、時に成長にどん欲なITエンジニアにとっては退屈さを感じさせてしまいます。一方、自動車レースは一戦一戦、1/100秒、1/1000秒単位で結果がはっきりと出ます。

プロチームではその結果を追求するために、メカニックは一切の妥協をせずにマシンの整備とセットアップを行い、ドライバーは全集中で運転に臨みます。しかしながら、モータースポーツの世界ではまだまだITやデータ分析の活用は普及していません。長年の経験を積み重ねてきたレースエンジニアとメカニックの感覚、ドライバーの気合と根性頼みの世界なのです。

2017年、知人の紹介でスーパーGTに参戦するチームに出会いました。これまでのサーキット走行の経験から、およそどんなデータを分析すればレース結果に結びつくかは想像がついていました。しかしながら、当初は素材となるデータの収集に苦労します。データ分析はデータを「集める」「ためる」「活用する」の三段活用が基本です。

ところが、レースの現場では、セッティングやタイム、ドライバーからのフィードバックが記録として存在していてもデータにはなっていませんでした。まずは、記録をデータ化し、それを自動的に収集する仕組みづくりから始め、3年かけてシステム化しました。また、当初は門外漢であった私たちのレースアナリティクスメンバーも、徐々にチームの一員として認められ、分析のアルゴリズムがどんどん実践的になっていきました。その結果、昨年2020年のシーズンでは関与したレースカテゴリーすべてでチームに優勝をもたらすことができました。



右：分析結果を元に
レース戦略を変更
左：GV Race
analytics GR YARIS
Powered by FUJITSU

アマチュアとしてレースに出ることの意義 自分たちで挑んだデータドリブンによるレース戦略

とはいえ、スポンサーをはじめとする多数の関係者のためにレースをするプロの世界はあくまでも結果がすべて。データ分析が導き出した奇抜な戦略はなかなかとりづらなのが実情です。また、近年ではモータースポーツに関心を寄せる自動車ファンも多数存在します。私たちがプロの世界で蓄積したノウハウを、モータースポーツ業界、ひいては日本の自動車産業全体の繁栄につなげられないか。アマチュアレーサーが、コストを抑えてもっと楽しくモータースポーツに取り組めるようにできないか。その発想を実証実験するため、今年5月、国内有数の過酷な自動車レース「スーパー耐久シリーズ第3戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース」に参戦しました。車両は、昨年、トヨタ自動車から満を持して市場に送り出したスポーツカー、GR YARIS。参戦にあたっては TOYOTA GAZOO Racing からサポートをいただきました。24 時間を交代で走るドライバーは、私の知人のアマチュアレーサーだけ。レーサーといっても、私を含めてサーキットを実際に走るのは年にほんの数回ほど。レースにおいて最大のコスト要因となるタイヤについては、ピットインすること「あたり

まえに」交換するのではなく、タイヤの状況と走行データを分析し、その結果を元に判断することで、できるだけタイヤの交換頻度を減らしました。それでも、終わってみれば24時間レース初出場にしてクラス2位表彰台獲得という存外の結果を残すことができ、『データ分析による戦略立案の有効性』を証明することができました。

TOYOTA GAZOO Racing Company President 佐藤 恒治様からの祝賀メッセージ

「トヨタのスポーツカーを取り戻したい」そのような想いで造った GR YARIS を駆り、GRANVALLEY Racing 様がクラス2位表彰台を獲得されましたこと、心よりお祝い申し上げます。今後もモータースポーツを起点としたもっといいクルマづくり、そして幸せの量産のためカスタマーモータースポーツ活動を支援してまいります。



過酷な24時間戦い抜いたGR YARISとチームメイト

with 富士通で日本に恩返しを

グランバレイは創業より『データ×経営のスペシャリスト集団』として、予測できない複雑な状況下における経営課題を、AIやデータ分析により解決するソリューションとサービスを提供しております。“with 富士通”でビジネス推進することを決めたのは、DX注目企業としてAIやIoT・5G・セキュリティなどのテクノロジーによるデータの利活用を促進し、自らのビジネスモデルをデータドリブンなものへと変革、お客様の経営課題解決に対しノウハウ還元しようとする富士通のアプローチに共感したからです。ERPなどのビジネストランザクションのみならず、DXの流れが進む中で発生するさまざまな新たなデータ、その活用ノウハウのお客様への還元を富士通様と共に推進していきたい。そうすることで、これまで自分を育ててくれた日本という国の経済や未来に貢献できたらと思っています。

お問い合わせ先

富士通ERPプロモーション事務局

contact-erp-promo@cs.jp.fujitsu.com

<https://www.fujitsu.com/jp/sap/>

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター